12/25 2004

Japanese Music Education Society News Letter

第 18 号 No.18

日本音楽教育学会 ニュースレター

目　　次

第 35 回全国大会（武蔵野音楽大学）報告 2
総会報告 3
学会諸規則・規定の改正について 4
平成 16 年度第 3 回常任理事・第 2 回理事会報告 5
『音楽教育実践ジャーナル』原稿募集のご案内 9
会員の声 10
夏期ワークショップ（2004.8.26〜27 in Tokyo）の感想
日本伝統音楽ワークショップに参加して思うこと（山口明子）
丸山忠璋氏による療法的音楽活動について（大塚博子）
キース・スワニック氏の全国大会での基調講演を聞いて（松本晴子）
第 5 回アジア・太平洋音楽教育シンポジウムのご案内 11
住所・所属変更及び新入会員住所 12
平成 15 年度修士論文題目（追加） 15
編集後記 15

第 35 回全国大会（武蔵野音楽大学）報告

大会実行委員長　坪能由紀子

第 35 回全国大会は 2004 年 11 月 13（土），14 日（日），武蔵野音楽大学を会場とし，344 名の会員，112 名の臨時会員（一般会員 95 名，学生会員 17 名），計 456 名の参加を得て，無事，成功裏に終えることができました。この大会を開催するにあたり全面的にお世話になった武蔵野音楽大学福井直敬学長をはじめとする武蔵野音楽大学のご支援に，心から感謝しております。

大会を終えた今，この大会に関わっていただいたすべての方々への感謝の気持ちでいっぱいです。受付や発表会場のお世話係のアルバイト学生を含めると 80 人あまりが会の運営に携わったことになります。まったくのボランティアの方もいらっしゃいました。それぞれの方への感謝を一つずつ書かせていただくと，それだけでこの記事は埋まってしまいます。それだけたくさんの方々にお世話になり，たくさんの善意と熱意をいただきました。

シンポジウム「これからの音楽教育学研究を考える」，及びイギリスを代表する音楽教育学者キース・スワニック氏を迎えた基調講演「音楽と音楽教育を啓発する研究方法とは？」では会場のモーツァルト・ホールが満員の盛況となり，今日の音楽教育研究の方向や課題が浮き彫りにされたのではないかと思います。ベートーヴェン・ホールに会場を移した武蔵野音楽大学関係者による演奏会は，音楽大学を会場とした大会ならではの醍醐味でした。研究発表や講演への参加の緊張からしばし解き放たれ，パイプ・オルガンをはじめとする演奏を堪能することができたのではないでしょうか。

シンポジウム

本年度から従来のプロジェクト研究は，理事会提案によるプロジェクト研究と，会員による共同企画に二分されることとなりました。プロジェクト研究としては「新しい学力評価と音楽科の学力」がパネルディスカッションの形をとって行われ，音楽科にとってもっとも今日的な課題の一つである「学力と評価」についてあつい議論がたたかわされました。

共同企画では５つのどの会場にもそれぞれたくさんの参加者があり，熱気にあふれた発表と討議が行われていました。また共同企画１「『越天楽今様』再考」と共同企画５「読譜記の原則を考える」では当学会としては珍しく，小学校の児童が多数参加してくれました。

研究発表は 61 にのぼり，７会場に分かれての開催となりました。関心を持たれた発表が重なってしまうという事態も起こったのではないかと思います。特にプロジェクト研究，共同企画，個人発表を同じ時間帯にせざるを得なかったため，参加者の方々にはご迷惑をおかけしたことと思います。お詫び申し上げます。

プロジェクト研究

またスメタナ・ホール，ロビーでは院生による 13 のポスター・セッションが出され，多くの人が訪れて活況を呈していました。

私は実際には研究発表，シンポジウムなどどれも全部を聴き通すことはできず，各会場に少しずつ顔を出させていただいただけでしたが，驚いたのは，ほとんどどの時間帯においても，誰一人として廊下にいなかったことです。それだけ発表も充実していたのだと思いますし，会員も熱心に参加してくださったのだと思います。

音楽教育が数々の困難と課題を抱えている現在，音楽教育学会のこのエネルギーが，音楽教育の未来に何らかの道を切り開いていく力となることを願っております。

第 35 回全国大会総会報告

日時：2004 年 11 月 13 日（土）17:00～18:00
場所：武蔵野音楽大学江古田校舎ベートーヴェン・ホール

開会に先立って北山事務局長より定足数に達するかどうかが確認され，規定により総会が成立した。

１．開会の辞（坪能副会長）
２．挨拶
・村尾忠廣会長
・Chan Cheong Jan（ISME 次回大会実行委員長代理）
３．議長選出
・慣例により関東地区から佐野靖（東京芸術大学）が選出された。
４．報告
１）会務報告（北山事務局長）
総会資料 1 をもとに，平成 15 年 12 月から平成 16 年度 11 月までの会務が報告された。
２）選挙報告（福嶋選挙管理副委員長）
総会資料 1 をもとに，平成 16 年度会長・理事選挙の経過，総会資料，2-1，2-2 をもとに選挙結果が報告された（会長，理事の選挙結果についてはニュースレター 17 号参照）。そのうち関東地区の理事に選出された八木正一が健康上の理由のため辞退し，次点の井口太が当選したことが報告された。
５．協議事項
１）平成 15 年度会計報告（杉江会計担当常任理事）
大会プログラム 81 ページをもとに会計報告が行われ，承認された。
２）監査報告（岩崎会計監事）
宮野モモ子監事とともに監査を行い，問題がなかったことが報告された。
３）平成 17 年度事業計画（北山事務局長）
総会資料 3 をもとに報告が行われ，承認された。
４）平成 17 年度予算（杉江会計担当常任理事）

大会プログラム 83 ページをもとに予算案が提案され，承認された。

５）次期役員承認（坪能次期会長）

11 月 13 日 12：00～13：30，武蔵野音楽大学第一会議室で「新理事打ち合わせ会」が行われ，平成 17 年度からの新役員が下記のように選出されたことが報告され，承認された。

副会長：岩崎洋一（福岡教育大），加藤富美子（東京学芸大学）

事務局長：小山真紀（立教大学）

常任理事：今川恭子（立教女学院短期大学），岩井正浩（神戸大学），奥忍（岡山大学），阪井恵（明星大学），佐野靖（東京芸術大学），島崎篤子（岩手大学），降矢美彌子（宮城教育大学），村尾忠廣（愛知教育大学）

会計監査：伊藤誠（埼玉大学），杉江淑子（滋賀大学）

６）学会諸規則・規定の改正について（北山事務局長）

昨年度総会における指摘にもとづき，「会則第二章会員，第６条（1）」にある「理事会の承認をへた者」の文言を，「理事会で承認された者」とすることが，総会資料４をもとに提案され，承認された。この正誤対照表は，ニュースレターに掲載されることとなった。

また，会則中の他の不適切な文言については，来年度からの新執行部のもとであらためて検討することが確認された。

なお『音楽教育学』の投稿については入会した翌年度から，『音楽教育実践ジャーナル』の投稿については入会した年度から，また大会時の口頭発表については入会した年度から認められることが確認された。

７）第 36 回大会開催について（津田第 36 回大会事務局長）

来年度大会へ向けた抱負と希望が述べられた。

８）第37回大会候補地について（村尾会長）

弘前大学が候補地として検討中であることが報告された。

９）音楽教育ゼミナール・イン・妙高 2005 について（伊野実行委員）

2005 年９月９～11 日にかけて「音楽教育の実践と研究の新たな展望」というテーマで，新潟県妙高高原町で行われる予定であることが報告された。ゲストとしてアメリカ，インディアナ大学のヨーゲンセン教授が講演予定であること，また現在ラウンドテーブル，ワークショップなどが公募中であること，多数の参加を希望することが述べられた。

６．閉会の辞（平井副会長）

（文責：坪能由紀子）

会則第二章会員，第６条（1）の一部改正　平成 16 年 11 月 13 日

旧	第６条　入会は，つぎの通りとする。 (1) 正会員・学生会員は，正会員または名誉会員１名の推薦を受けて入会を申請し，理事会の承認をへた者。

新	第６条　入会は，つぎの通りとする。 (1) 正会員・学生会員は，正会員または名誉会員１名の推薦を受けて入会を申請し，理事会<u>で承認された</u>者。

平成 16 年度第３回常任理事会・第２回理事会報告

日時：平成 16 年 11 月 12 日（金）13:00～17:00
場所：武蔵野音楽大学江古田校舎３号館２階第１会議室
平成 16 年度第３回常任理事会（13:00～15:00）
　出席：村尾・坪能・平井・北山・奥・小山・島崎・杉江・筒石・藤沢
　欠席：加藤・重嶋・丸山
平成 16 年度第２回理事会（15:00～17:00）
　出席：村尾・坪能・平井・北山・浅井・伊藤・伊野・今川・奥・小山・島崎
　　杉江・竹内・筒石・中原・野波・藤沢・丸林・南・山本
　欠席：加藤・木村・阪井・重嶋・田邊・丸山・吉富

【報告事項】

１．会務報告（北山事務局長）

常任理事会では第２回常任理事会（6 月 26 日），理事会では第 1 回理事会（4 月 22 日）後から現在までの総務・企画・編集委員会等の会務報告がなされた。特に 10 月 31 日の第 36 回大会（沖縄）の打ち合わせに関しては，別紙資料に基づき詳細に報告された。

２．会長・理事選挙について（村尾会長）

１）選挙管理委員長欠席のため村尾会長が，会長および理事選挙の結果報告を行った。

・会長：坪能由紀子

・理事：北海道（寺田貴雄），東北（降矢美彌子），関東（井口太，今川恭子，加藤富美子，熊木眞見子，小山真紀，阪井恵，佐野靖，島崎篤子，宮野モモ子，山本文茂），北陸（小川昌文，篠原秀夫），東海（南曜子，村尾忠廣），近畿（岩井正浩，嶋田由美，安田寛，若尾裕），中国（奥忍，小川容子），四国（田邊隆），九州（岩崎洋一，木村次宏）

・なお関東地区の井口太，宮野モモ子，八木正一氏が同じ得票数であったが，健康上の理由から八木氏が辞退したため，井口，宮野両氏が理事に選出された旨の報告があった。

２）理事・会長選挙に関連する検討事項

・理事選挙関連では従来の地区割りの再検討の必要性，また会長選挙関連では立候補者１名の場合の選挙方法を検討する必要性が共通に認識された。したがって新年度に学会運営検討委員会を設置し，選挙規定や地区割りの再検討を行うこととなった。

３．各種委員会報告

１）編集委員会（伊野委員）

① 発行予定の報告

『音楽教育学』第 34 巻第 2 号は 12 月 25 日発行予定。原稿締切は 11 月末日。

『音楽教育実践ジャーナル』第２巻第２号は３月中に発行予定。

『音楽教育学』第 35 巻第 1 号の原稿締切は３月 10 日。

② 今後の検討事項

・投稿論文の締切日設定の必要性については，今後，編集委員会で検討する。

・原稿受理の本人への通知は編集委員会における決定事項だったが，曖昧になっていたケースがあり，今後，一層改善す

ることが確認された。

２）音楽文献目録委員会（今川委員・村尾会長）

・発刊されたばかりの第 32 号の音楽文献目録を理事会で回覧した。

・村尾会長から諸事情を勘案して今回は RILM 分担金増額に応じる旨の報告があった。

４．各地区例会報告（理事会のみ）

・北海道地区：計画中

・東北地区：9 月 11 日（岩手大学）開催～ワークショップと研究発表。

・関東地区：2 月 5 日（国立音楽大学）開催予定。

・北陸地区：夏例会 8 月（上越教育大学）開催～鑑賞。冬例会 2～3 月（上越教育大学）開催予定。

・東海地区：6 月 12 日（三重大学）で開催～ワークショップと研究発表。3 月に日本音楽学会との合同例会開催予定。

・近畿地区：5 月 15 日（神戸女学院大学）で開催～研究発表。3 月にワークショップ開催予定。

・中国地区：秋と春の 2 回開催を計画中。

・九州地区：3 月 5 日（長崎大学）開催予定。

・北山事務局長から地区例会の今後の予定は，学会の HP で公開するので正確な日程等が決まり次第，学会事務局に連絡するようにとの依頼があった。

５．その他

１）夏期ワークショップ報告（島崎委員）

夏期ワークショップ（8 月 26・27 日）の参加者数（延べ 44 名）及び収支決算報告。

２）第 35 回大会について（坪能大会実行委員長）

・プロジェクター等の物品手配状況や会場費等の件についての報告。

３）平成 17 年度予算案（第 35 回大会プログラム掲載）について→ 8 ページを参照

【協議事項】

１．第 35 回大会について

１）総会議題等の確認（村尾会長）

・報告，提案者，協議事項の確認

・議長候補者の決定

２）学会諸会則・規定の改正について（北山事務局長）

・日本音楽教育学会会則の第 6 条 (1) に関する会員からの文言訂正要求に対応して，常任理事会および理事会で訂正案を検討した。但し，次年度以降に新たに会則検討委員会を設置し，表記上検討すべき事項について改定案を作成することとなった。

・発表および投稿資格の確認がなされた。『音楽教育学』入会翌年から投稿可。『音楽教育実践ジャーナル』および大会口頭発表は入会年から投稿および発表可。

３）第 37 回大会候補地について（村尾会長）

・現在，弘前大学が候補として検討に入っている。

２．2005 年音楽教育ゼミナールについて（伊野委員）

・会場校の重嶋委員が欠席のため同地区の伊野委員から現在の進捗状況および第 2 募集（締切 12 月 15 日）等についての報告があった。

３．新入会員および退会者の承認

・事務局から，新しいパソコンの購入に

より会員に関する正確なデータの整理が進んだ旨の報告があった。

1）新入会＝22名，申し出退会者＝3名，自然退会者＋未整理分＝77名

2）新入会員と申し出退会者

＜新入会員＞

下記の3186番から3207番までの22名を承認した。

3186　島津　幸子
3187　入口　優子　福岡教育大学院生
3188　畑本かおり　鳥取県教育ｾﾝﾀｰ
3189　佐川　　馨　秋田県総合生活文化会館
3190　登　　啓子　武蔵野音楽大学附属音楽教室（ｵﾙﾌ）
3191　倉林明日香　上越教育大学院生
3192　兜森多香子　弘前大学院生
3193　小倉　尚子　弘前大学院生
3194　松田　明子　河北町立西里小学校
3195　吉松　遊佳　中村学園大学
3196　田上美奈子　浜松学院大学短期大学部
3197　尾山　　豊　福岡教育大学院生
3198　志水　照匡　金沢大学院生
3199　檜山　乃武　（株）BMGﾌｧﾝﾊｳｽ
3200　葉口　英子　京都大学院生
3201　高松　　舞　弘前大学院生
3202　松野　恵子　千葉県市川市立福栄小学校
3203　元吉ひろみ　聖徳大学院生
3204　山浦　敬子　葛飾区立南奥戸小学校
3205　森田　博子　東海女子短期大学
3206　眞瀬佐緒里　早稲田実業学校初等部
3207　川村　優子

＜申し出退会者＞

1946　日下部 弘美
1601　三好 良枝
0462　吉本 隆行

4．その他

1）プロジェクト研究（村尾会長）

・本年度からプロジェクト研究は学会企画のみとなった。新年度発足後にテーマを決定すると研究の取り組みが遅れるため，村尾会長から次年度のプロジェクト研究テーマの前年度内決定と具体的なテーマの提案があった。理事会でこれを承認し，2005年のプロジェクト研究は次の2テーマとなった。なお新テーマ提案の背後には，従来の教科教育学研究連絡委員会が学術会議の正規団体から外れ，音楽教育学会はオブザーバー会員の立場になってから同会議からの助成金がなくなったこと，科学研究費の教科教育項目もなくなったこと等の教科教育学軽視の動向に疑義を呈する意図も含まれている。

・プロジェクト1「新しい学習評価と音楽科の学力」（常任理事企画担当・継続研究）

・プロジェクト2「音楽科学習指導要領における教育内容の削減がもたらしたもの」（村尾会長提案）

2）国際交流委員会〔仮称〕（奥委員）

・益々国際交流が活発化する中で，本学会の国際的な活動の窓口として，国際的な連絡事項や課題に対応できる委員会を設置したいという奥委員からの提案があり，理事会でこれを承認した。規約・組織・活動内容の詳細については新理事会発足後に国際交流委員会（仮称）を設置して原案を作成する。同委員会は諸外国の音楽教育研究の情報収集やアジアの音楽教育における日本の役割の明確化など様々な課題への対応が予想される。

（記録：島崎篤子）

Ⅰ　一般会計

収入		支出	
科　目	17年度予算	科　目	17年度予算
前年度繰越金	2,440,054	大会運営費	1,500,000
正会員会費	10,290,000	大会本部経費	700,000
	(7000×1470)	事務局経費	600,000
学生会員会費		プロジェクト研究	200,000
団体会員会費	60,000	学会誌費	2,830,000
賛助会員会費	340,000	音楽教育学印刷費	2,430,000
学会誌売上金	350,000	実践ジャーナル印刷費	
本代		編集費及び原稿料	
送料		ニュースレター費	400,000
大会参加費	1,300,000	例会運営費	900,000
		通信・郵送費	1,300,000
雑収入	20,000	会議費	150,000
		旅費・交通費	1,750,000
		宿泊費	120,000
		事務局費	3,100,000
		事務費	320,000
		人件費	1,730,000
		事務局運営費	1,050,000
		分担金	141,000
		選挙費	150,000
		退職引当金	20,000
		ゼミナール積立金	150,000
		研究出版基金	0
		学会基金	0
		予備費	800,000
		小計	12,911,000
		次年度繰越金	1,889,054
計	14,800,054	計	14,800,054

『音楽教育実践ジャーナル』原稿募集のご案内

編集委員長　安田　寛

日ごとに寒くなってまいりましたが，会員の皆様はいかがお過ごしでしょうか。さて，編集委員会では，『音楽教育実践ジャーナル』通巻５号の特集に向け，下記の要領で原稿を募集いたします。投稿に際して，書式，字数などは（特に指定がない限り）『音楽教育実践ジャーナル』投稿規定をご覧下さい。なお，投稿の際には，原稿の表紙に「特集への応募原稿：『実践ジャーナル』通巻５号」と明記してください。採択された原稿については，５月末日までに編集委員会から投稿者に連絡いたします。

1．特集タイトル：「実践のための研究法入門」（仮）
2．企画担当者：安達真由美・小泉恭子
3．原稿締め切り：2004（平成 17）年４月末日（必着）
4．特集の趣旨・募集原稿：学校の音楽授業，個人の楽器指導，部活やコミュニティーでの音楽指導など，音楽教育の実践には様々な形がありますが，どんなに準備をしていても，いつも指導者が意図するようにスムーズに学習が促されるわけではないという経験はどなたもお持ちなのではないでしょうか。思ったとおりにいかない場合，私たちは意識する，しないに関わらず，その場の問題を分析し解決することで，当初の予定とは違った形ででも学習者の向上を促します。このような，日々の実践における問題解決は，実は「研究の第一歩」とも言えるのですが，音楽教育ではこれまで，「研究は実践とは別世界の話」と思われがちだったのではないでしょうか。そこで『実践ジャーナル』通巻５号では，これまで実践現場から敬遠されがちだった『研究法』を『実践における特定の疑問を解決するための方法』ととらえることで，音楽教育における『実践』と『研究』が，どのように関連しあい，相互に貢献しあえるかについて探りたいと考えています。
5．募集原稿：今回の特集では，つぎの３種類の原稿を募集いたします。皆様の活発なご参加を期待しております。

（1）「どうして子どもはこんなことをするんだろう」「うまく行くと思ったのに，どうしてうまくいかなかったんだろう」などの疑問を実際に感じた時の状況や，自分がどう対処したか（しなかったか）などについての短いエッセイ（2000 字程度）。

（2）実践の中から芽生えた疑問について調査・実験したことについての報告や，研究結果を元に行った（行っている）実践についての報告（この場合には，「これまで未報告の実践や研究についての報告であること」を表紙に明記すること）。

（3）『実践』と『研究』の関係についての意見や，どうしたら相互が関連し会えるかについての提案など。

会員の声

夏期ワークショップ（2004.8.26～27 in Tokyo）の感想

日本伝統音楽ワークショップに参加して思うこと（第１日目）

遠方からの意欲的な参加者，あるいは音楽的素養が備わった経験豊かな参加者と，日頃から積極的に演奏活動や邦楽の教育に取り組んでおられる講師との出会いからは，当然有意義で密度の濃い時間が演出されたと思います。私自身も実は尺八を初めて手にした記念すべき日でした。まず，触れてみなければ何も始まりません。日本の楽器（箏・三味線・尺八）の特色や扱い方を少しでも知り，邦楽的な感覚，間，といったものを感じた上で創作活動へと発展させたり，古典曲の合奏を生で鑑賞できたり，と盛り沢山の内容でした。

しかし，どんな楽器でも，長年取り組んでも，なかなか成果を出すのは難しいものです。楽しさや魅力が分かった後，どう継続できるかが本当は重要だと感じています。古典的な奏法や基礎をじっくりと身に付けていくことにより，邦楽本来の味わいや感覚がより一層深く理解できると考えるからです。

山口明子（山田流箏曲演奏家）

丸山忠璋氏による療法的音楽活動について（第２日目）

療法的音楽活動の目的は，音楽を通した遊びであり，目標は，音楽を楽しむことである。活動内容・方法を，参加者の興味・関心・技術力に合わせて，みんなで共有できる音楽や活動を取りあげていく。丸山氏のギター伴奏に合わせて，はじまりの歌「友だちさん歌」からセミナー開始。その後，ピクチャーカードに合わせて歌ったり，簡単なリズム楽器の演奏を交えて歌ったり，トーンチャイムを演奏したりと，参加者が一体となって活動が深められていく。「楽器で自己紹介」「太鼓でおはなし」では，初めて出会った者同士が，好きな楽器を好きなリズム・奏法で演奏することで自己表現する。そこには，相手の演奏を聴こうとしたり，待とうとしたり，合わせようとしたりするコミュニケーションが生まれていく。初めは堅かった参加者の表情が，次第にリラックスした姿に変わっていった。

今回紹介された療法的音楽活動の内容は多岐にわたり，身体運動を伴って歌うこと，簡単な手遊び歌，歌詞の意味を考えて歌う，鑑賞等・・・これらの活動を，その時の参加者の実態に合わせて行う訳である。印象的だった事は，これらの活動の中に参加者の個性が必ず生かされていることである。つまり，丸山氏の療法的音楽活動の中には，個が無理なく生かされる場面が必ず用意されているのである。個々人の内発的動機，表現したいと思う気持ちが大切にされ，表現されたものは受容される。そのために，指導者は雰囲気づくりに努め，「できること」に注目した活動を中心に組み立てていくことが重要となる。

療法的音楽活動の目指すのは「人権としての音楽」。私たちが生きていく上に必要な音楽であり，どんな人にとっても大切とされなければならない音楽という丸山氏の言葉が，深く心に刻まれたワークショップであった。

埼玉県派遣履修生
春日部市立武里西小学校　大塚博子

キース・スワニック氏の全国大会での基調講演（2004.11.14）を聞いて

著書では存じ上げていたが，このたび初めて生のキース氏に触れる機会を得た。キース氏は，寒暖の差の激しい日本の秋の気候のせいか来日早々風邪をひかれたとのことだった。しかし，体調のすぐれないことなどは感じさせない熱のこもった講演をしてくださった。気さくなお人柄で音楽と音楽教育を愛するイギリス紳士という印象を受けた。

講演内容は，「隠喩」の概念，音楽活動における「隠喩」のプロセスと捉え方だった。「隠喩」とは，私たちが対話したり，思考したり，創造したりする時に行われていることで，私たちは自分の経験をそれぞれ固有なイメージに変換してから新しい関係の中に引き込んでいる。「隠喩の活発な現象」が対話や思考，創造などを促進しているという理論だった。音楽活動のプロセスの例として，鈴木メソードのことを話なされたが，発達段階に応じて音楽の本質に迫るような本物に出会う経験が大切で，その経験・体験をふまえて「隠喩」が行われ続けていくということを学んだ。

講演の後半では，この理論に基づく音楽教育研究の方法とその成果についての提示があった。日本の音楽教育研究の拡がりにひとつの示唆を与えたと考える。

松本晴子（東京学芸大学連合大学院）

第５回アジア・太平洋音楽教育シンポジウム　シアトル大会 2005 年 7 月 14-16 日 ご案内

研究発表，ラウンドテーブル，ワークショップ発表の募集案内

前回の第４回香港大会は SARS 問題で大騒ぎをいたしましたが，第５回のアジア太平洋音楽教育シンポジウムはアメリカの太平洋海岸，シアトルで開催されます。

開催地：University of Washington,
Seattle, USA
開催期日：2005 年 7 月 14 日～16 日
大会実行委員長：Steve Morisson

発表申し込み：500Words のアブストラクトを下記の Web から e-mail で送付
http://depts.washington.edu/apsmer05/Call_for_Abstracts.htm
アブストラクトの提出締め切り：2005 年 1 月 31 日
詳細は，下記 Web をご覧ください。
http://depts.washington.edu/apsmer05/APSMER2005.htm

（村尾忠廣）

住所・所属変更及び新入会員住所（2004年11月承認まで）

2004年度版No.1　11月30日現在

PDF版ニュースレターでは
個人情報に関する記事を削除しています

平成１５年度修士論文題目（追加分）

山梨大学
茅野　紫：「初等音楽科教育における図形楽譜を用いた読譜指導の意義と方法」

*** 編集後記 **********

今年はオーストラリアからのサバティカル研究員を研究室に迎えた。研究するにはやはり絶対的な時間が必要である。研究員の彼女と日本の伝統文化の共同研究をしながら考えた。年々忙しくなって来たのでここらで一服。自分を見直す良い機会だ。あれこれはやめて，ひたすら一つの音，一つのことにこだわろう。結局基礎をじっくりと身に付けていくことがその先の大きな自由を獲得できることを実感する。（筒石賢昭）

いい歳をして自他共に認める新し物好きの私も，昨今の大学教育の奇を衒ったような改革案には気恥ずかしさを覚えるときがある。そんなことが度重なると，まるで異界に迷い込んだような気分にさえなる。ひょっとしてオカシイのは自分のほうなのかもしれない。この倒錯した感覚はどこかで経験したような・・・そうだ，これは昔読んだ「河童」の世界に似ている。次の日曜日にもう一度読み直してみよう。（北山敦康）

****

【日本音楽教育学会役員（2002-2004 年度）】
会長：村尾忠廣　副会長：平井建二・坪能由紀子
常任理事：北山敦康（事務局長），奥忍・藤沢章彦・筒石賢昭（総務），
加藤富美子・島崎篤子・丸山忠璋（企画）重嶋博・杉江淑子（会計）
理事：浅井良之（北海道），丸林実千代（東北），伊藤誠・今川恭子・
小山真紀・阪井恵・山本文茂（関東），伊野義博（北陸），南曜子（東海），
中原昭哉・竹内俊一（近畿），野波健彦・吉富功修（中国），
田邉隆（四国），木村次宏（九州）

【事務局住所】〒184-0015 東京都小金井市貫井北町 2-5-22 ハイツシーダ 1-102
【私　書　箱】〒184-8799 東京都小金井郵便局私書箱 26
Tel/Fax：042-381-3562　e-mail：onkyoiku@remus.dti.ne.jp
http://wwwsoc.nii.ac.jp/jmes2/index.html